

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

日本人の悪性黒色腫患者の予後因子に関する研究

研究分担者 加藤則人・京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学・教授
研究協力者 藤澤康弘・筑波大学医学医療系皮膚科・准教授
研究協力者 島内隆寿・浜松医科大学皮膚科・講師
研究協力者 藤井一恭・鹿児島大学医学部皮膚科学教室・講師
研究協力者 浅井純・京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学・講師

研究要旨（皮膚悪性腫瘍（悪性黒色腫、皮膚悪性リンパ腫）臨床データベースの現状と将来）

欧米とは症例数やスキンタイプなどが異なる日本人における悪性黒色腫患者の予後因子を検討することを目的に、日本皮膚悪性腫瘍学会皮膚がん予後統計委員会で集積した悪性黒色腫の 4594 症例を Kaplan-Meier 法と Cox 回帰分析で検討した。病型は、末端黒子型が 40.4%、表在拡大型が 20.5%、結節型が 10.0%、粘膜型が 9.5%、悪性黒子型が 8.1%であった。高年齢や結節型、粘膜型は TNM とは独立した予後不良因子であった。病期別の 5 年疾患特異的生存率は、IA = 98%、IB = 93.9%、A = 94.8%、B = 82.4%、C = 71.8%、A = 75.0%、B = 61.3%、C = 41.7%、and = 17.7%であった。また、コホート全体では病型は予後との相関はなかったが、病期 A では末端黒子型が予後と相関した。日本人との悪性黒色腫の病型や部位(手足に多い)の違いが明らかになり、今後も日本人の症例集積と予後調査を継続することが重要と考えられた。

A．研究目的

本邦における悪性黒色腫の症例数は欧米と比較して少なく、まとまった症例数による統計調査の報告は少ない。また、欧米における調査結果をスキンタイプの異なる日本人集団にそのまま当てはめることは、多くの問題がある。そこで、日本人の悪性黒色腫の予後に関わる因子を多数の症例から明らかにすることを目的とした。

B．研究方法

日本皮膚悪性腫瘍学会皮膚がん予後統計委員会で集積した悪性黒色腫の症例を American Joint Committee on Cancer (AJCC) 第 7 版で分類し、Kaplan-Meier 法と Cox 回帰分析により、予後に影響を与える因子について検討した。

（倫理面への配慮）

所属機関の医学倫理審査委員会の承認を得て行った。

C．研究結果

今回の解析には 4594 症例のデータを用い

た。病型は、末端黒子型が 40.4%、表在拡大型が 20.5%、結節型が 10.0%、粘膜型が 9.5%、悪性黒子型が 8.1%であった。日本人の悪性黒色腫患者では 27.8%において病変の厚さが T4b であり、AJCC の 5.1%と比較して原発病変が厚い傾向があることが分かった。

病期別の 5 年疾患特異的生存率は、IA = 98%、IB = 93.9%、A = 94.8%、B = 82.4%、C = 71.8%、A = 75.0%、B = 61.3%、C = 41.7%、and = 17.7%であった。高年齢や結節型、粘膜型は TNM とは独立した予後不良因子であった。

また、コホート全体では、病型は予後との相関はなかったが、病期 A では末端黒子型が予後と相関した。

D．考察

非ヒスパニック系白人における末端黒子型の悪性黒色腫の割合が 1.5%である一方、日本人では 40.4%にみられ、日本人との悪性黒色腫の病型や部位(手足に多い)の違いが明らかになった。

また、5 年疾患特異的生存率は欧米の報告

と同様の傾向であったが、病期 A では末端黒子型が予後と相関しており、病型が予後に何らかの影響を与える可能性が示唆された。

E . 結論

日本人における悪性黒色腫の病型が、欧米の報告とは異なっており、日本人の症例集積と予後調査が重要である。

F . 健康危険情報

特になし

G . 研究発表

1. 論文発表

1. Fujii K, Hamada T, Simauchi T, Asai J, Fujisawa Y, Ihn H, Katoh N. Cutaneous lymphoma in Japan, 2012–2017: A nationwide study. J Dermatol Sci, doi: 10.1016/j.jdermsci.2020.01.010.
2. Fujisawa Y, Yoshikawa S, Minagawa A, Takenouchi T, Yokota K, Uchi H, Noma N, Nakamura Y, Asai J, Kato J, Fujiwara S, Fukushima S, Uehara J, Hoashi T, Kaji T, Fujimura T, Namikawa K, Yoshioka M, Murata N, Ogata D, Matsuyama K, Hatta N, Shibayama Y, Fujiyama T, Ishikawa M, Yamada D, Kishi A, Nakamura Y, Shimauchi T, Fujii K, Fujimoto M, Ihn H, Katoh N. Classification of 3097 patients from the Japanese Melanoma Study database using the American Joint Committee on Cancer Eighth Edition Cancer Staging System. J Dermatol Sci 2019; 94: 284-289.
3. Fujisawa Y, Yoshikawa S, Minagawa A, Takenouchi A, Yokota K, Uchi H, Noma N, Nakamura Y, Asai J, Kato J, Fujiwara S, Fukushima S, Uehara J, Hoashi T, Kazi T, Fujimura T, Namikawa K, Yoshioka M, Murata N, Ogata D, Matsuyama K, Hatta N, Shibayama Y, Fujiyama T, Ishikawa M,

Yamada D, Kishi A, Nakamura Y, Shimauchi T, Fujii K, Ihn H, Katoh N. Clinical and histopathological characteristics and survival analysis of 4594 melanoma in Japan: focused on acral and mucosal melanoma. Cancer Med 2019; 8: 2146-2156.

2. 学会発表

1. 藤澤康弘、浅井純、島内隆寿、藤井一恭、加藤則人、尹浩信. 日本皮膚悪性腫瘍学会予後統計委員会で集積した本邦における悪性黒色腫症例 4594 例の解析. 第 35 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 神戸市、2019.5.25.
2. 藤澤康弘、舩越建、浅井純、島内隆寿、藤井一恭、加藤則人、尹浩信. 皮膚科を受診した進行期非メラノーマ皮膚がんの全国調査. 第 35 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 神戸市、2019.5.25.
3. 藤井一恭、島内隆寿、浅井純、藤澤康弘、尹浩信、加藤則人. 皮膚リンパ腫全国症例数調査の結果 (2018 年版). 第 35 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 神戸市、2019.5.25.
4. 藤澤康弘、浅井純、島内隆寿、藤井一恭、加藤則人、尹浩信. 悪性黒色腫調査結果 (2018 年報告). 第 35 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 神戸市、2019.5.25.

H . 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし